

局

動

き

総務部

公正取引委員会の委員が来沖

～有識者との懇談会、講演会、独占禁止法教室を開催～

公正取引委員会の小田切宏之委員が11月11日～13日に来沖し、那覇市内のホテルで、経済団体や消費者団体の代表者、大学教授などの有識者と懇談するとともに、「持続的な経済成長の実現と公正取引委員会の役割」について講演を行いました。また、琉球大学では、競争政策の意義、独占禁止法の内容と手続、競争政策における新たな課題（グローバル化への対応）について講義を行いました。

懇談会において有識者から出された地区の実情や意見・要望は、今後の独占禁止法等の運用にいかされることになります。



有識者との懇談会



琉球大学法文学部での講義



講演会

財務部

金融庁業務説明会

財務部では、10月21日及び11月12日の2日間において、金融行政に対する理解を深めることを目的に、那覇第2地方合同庁舎において、「金融庁業務説明会」を開催しました。

10月21日は、銀行及び信用金庫の経営陣の方々にご参加いただき、金融庁証券取引等監視委員会の佐々木事務局長から『地域金融における課題と今後の取組み』、及び『平成27事務年度金融行政方針』（今事務年度の金融庁全体における重点施策等を明確化したもの。9月18日公表）について説明がありました。具体的には、金融機関による担保・保証に過度に依存しない融資や、企業の事業内容・成長可能性等

を適切に評価する融資の促進等について取組んでいくことが示されました。

11月12日は、商工会議所等の借り手及び税理士等経営支援の担い手等の方々にご参加いただき、当局の安藤財務部長から金融行政方針等について説明を行った後、地域金融機関の取組

状況について意見交換を行いました。意見交換会では、地域金融機関の企業に対する姿勢や経営者保証ガイドラインの活用状況、また金融機関の地方創生への取組状況等について、意見・要望があったほか、金融行政に係る施策・制度に関する提言等がありました。



金融機関向け説明会



商工会議所等向け説明会

局の動き

農林水産部

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」選定 ～やんばる畠人プロジェクト～

内閣官房及び農林水産省では、農山漁村の活性化の優良事例を「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として、全国に発信しており、第2回目となる今年度は、全国683地区の応募の中から27地区を選定しました。

沖縄県内からは、名護市の「やんばる畠人プロジェクト」が選定（九州・沖縄地区1位）され、10月29日に首相官邸において安倍内閣総理大臣らの出席のもと、選定

証授与式及び交流会が行われ、11月12日にはその様子などについて、同団体による選定報告が沖縄総合事務局で行われました。

同団体は、やんばるの畠人（農家）とレストラン・ホテル等が連携し、「やんばるは美味しい」を合言葉に、農産物からスパイスまで全て地元やんばる産の食材を使っておもてなしをすることをモットーとして、6次産業化や食育、PRイベントなど、地域資源の

魅力発信・活用促進に向けた活動に取り組んでいます。皆様も新しいやんばるを再発見しに訪れてみてはいかがでしょうか。



やんばるピースで記念撮影

農林水産部

6次産業化推進パネル展・加工品表彰式

11月24日～27日の4日間、沖縄総合事務局行政情報プラザにおいて、「沖縄地域6次産業化推進パネル展」を開催しました。

本パネル展では、農山漁村における6次産業化の取組について、一般の方々の理解を深めていただくため、六次産業化・地産地消法に基づく事業計画の認定を受けた県内54事業者（27年10月末現在）の取組を紹介するとともに、事業者が開発した各商品の展示を行いました。

また、最終日には、「6次産業化加

工品表彰式」を開催し、事前審査の結果選ばれた、事業者が開発した優良品21点（すぐりむん賞5点、でいきとーん賞9点、かりゆし賞7点）を表彰し、その後、受賞者や関係者ら出席のもと意見交換や受賞商品の試食・試飲会も行いました。



表彰式の様子

すぐりむん賞（最優秀賞）

商品名	事業者名
A. クワソウ花ピクルス	株式会社今帰仁ざまみファーム
B. クワソウ花ジュレ	株式会社今帰仁ざまみファーム
C. 皮も種もまるごと搾り	有限会社勝山シーサーサー
D. 名護珈琲ジェラート	有限会社名護珈琲
E. 牛トロ燻製	有限会社ゆいまーる牧場



受賞商品

農林水産部

沖縄の薬用作物等に関する講演会及びパネル展

沖縄では、ウコン、アロエ、ボタンボウフウ等の薬用作物が古くから栽培・利用されており、近年、消費者の健康志向を背景に注目され、その生産拡大や健康食品向けの加工・販売の取組が行われています。このたび、これら沖縄の薬用作物の良さをより知りたいため、沖縄総合事務局において、沖縄の薬用作物等に関する講演会（10月26日）及びパネル展（10月27～30日）を開催しました。

講演会には約100名の参加があり、薬用作物の主産地である南城市から生産者や行政関係者のほか、

研究者、料理家の方々を講師としてお招きし、栽培の取組や機能性、薬膳料理など、多様な視点からご講演をいただきました。また、パネル展には約260名の来場があり、薬用作物の種類や機能性、様々な薬膳料理・健康食品について紹介したほか、作物の実物展示や薬草茶の試



講演会の様子

飲も行いました。

両イベントの参加者からは、「様々な分野で活躍する方のお話が聞いて勉強になった」、「薬用作物についてより深く知ることができた」などの感想が寄せられ、薬用作物についての関心の高さがうかがえました。



パネル展会場の様子

局

の

動

き

農林水産部

沖縄農林水産物・食品輸出促進セミナー

11月17日、那覇市職員厚生会館において、沖縄の農林水産物・食品の更なる輸出拡大に向けて、「沖縄農林水産物・食品輸出促進セミナー」を農林水産省とともに開催しました。

本セミナーでは、農林水産省食料産業局岩瀬審議官より、国の農林水産物・食品の輸出促進に向けた展開方向についての基調講演があつたほか、沖縄総合事務局より沖縄からの輸出の状況について報

告を行いました。さらに、(株)沖縄物産公社の小浜ジャパンブランド推進課長より全国特産品の輸出の取組について、(株)新垣通商の儀間統括部長より沖縄県産もずくの販路拡大の取組についてそれぞれご紹介いただきました。当日は、約90名の参加があり、活発な質疑応答も行われました。

沖縄には亜熱帯の気候を活かした多彩な農林水産物やこれら地域資源を活かした魅力ある商品が数

多く生まれており、アジア地域等への輸出も活性化しています。本セミナーが、沖縄からの魅力ある商品の輸出拡大に向けた一つの契機となることを期待しています。



セミナーの様子

農林水産部

食肉情報出張講座

～国産食肉の安全・安心の確保と生活習慣病を考える～

11月6日、沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハにおいて、国産食肉について、正確な情報提供により、その信頼確保と需要喚起を図るとともに、県民の生活習慣病予防について考えることを目的として、「食肉情報出張講座」を開催しました。

基調講演では、北海道大学大学院の迫田教授から、鳥インフルエンザの基本情報や国内外での流行状況、発生予防対策についてご講演いただいたほか、茨城キリスト

教大学の板倉名誉教授から、食肉からのタンパク質摂取が生活習慣病予防のために重要であることなどについてご講演をいただきました。また、(株)沖縄県食肉センターの上江田考查役からは、沖縄県食肉センターと生産農場における衛生管理の取組状況などについて報告がありました。

本講座には消費者や食肉関連事業者など81名の参加があり、鳥インフルエンザワクチンの開発状

況や県内ブランド豚の取組状況について活発な質疑・意見交換が行われました。



迫田教授による基調講演と会場の様子

農林水産部

食品安全セミナー

～家庭でできる食品安全～

12月4日、沖縄総合事務局において、食品の安全性についての正しい知識や家庭でできる食生活上の工夫などを知っていただくため、「食品安全セミナー」を開催しました。

本セミナーでは、農林水産省消費・安全局食品安全政策課の小田リスク管理専門官から、「食品中のアクリルアミドを減らすために家庭でできること」と題し、高熱で食品加熱をすると知らないうちにできてしまう化学物質「アクリルアミド」

について、その発生原因や家庭での注意点などを中心にご説明いただきました。また、同課の五島リスク管理専門官から、「食中毒を防ぐためにできること」と題し、細菌・ウイルスといった微生物による食中毒を防ぐために家庭でできることや農場における衛生管理の取組について、ご説明いただきました。

本セミナーには、共催の生活協同組合コープおきなわの組合員をはじめ、消費者や事業者など約50

名の参加があり、活発な質疑が行われました。参加者からは「家庭での調理において、どんなことに気をつければ良いかが詳しく分かつて大変良かった」といった意見が寄せられました。



食品安全セミナーの様子

局の動き

経済産業部

RESAS☆出前講座

国は、自治体の地方創生に向けた「地方版総合戦略」の策定に当たり、情報面・データ面から支援することを目的に、地域経済に関する様々な官民のビッグデータ(産業、人口、観光、農業等)をわかりやすく「見える化(可視化)」したシステムである「地域経済分析システム(RESAS:リーサス)」を、本年4月から提供しています。

RESASは、一般の方も見ることができることのできるシステムであることから、内閣官房(まち・ひと・しごと創生本部事務局)及び内閣府(地

方創生推進室)は、RESASを学生の方々にも積極的に活用していくため、全国の高校や大学等での「出前講座」を開催しています。

沖縄県内でも、11月4日に八重山3校の学生、11月5日に沖縄工業高等専門学校の学生に対して、出前講座を開催しました。

出前講座では、学生に、システムを使って地域を分析し、課題を見つけ、解決する取組の提案などをしていただきました。学生からは、「地域の実態をデータとして見ることができ、気付きがあつておも

しろい」との声がありました。



講座の様子



地域を分析して発表する学生

経済産業部

ヘルスケア関連産業創出推進の取組(ヘルスケア産業創出推進会議)

経済産業部企画振興課では、沖縄におけるヘルスケア関連産業の創出・発展の実現及びそれによる医療費適正化への貢献に向け、ヘルスケア産業創出の基盤整備に取り組んでおります。

具体的には、ヘルスケアビジネス創出推進体制の機能強化を図るとともに、地域資源を活用したヘルスケアビジネスモデルを構築することで、沖縄における多様なヘルスケアビジネスが継続的に創出

されることを目指しています。

当事業の一環として、ヘルスケアビジネス創出推進体制の機能強化に向けた「ヘルスケア産業創出会議」を設置し、11月4日に第1回会議を開催しました。会議では、沖縄の健康やヘルスケア産業の現状・課題及びヘルスケア産業の創出・推進のための方向性について議論を行いました。委員からは、「『健康経営』は企業経営にとって重要な視点である」、「県民の健

康に対する意識向上に向けた取組が重要である」、「地域づくりと健康増進を結節した視点も重要である」などの御意見をいただきました。



会議の様子

経済産業部

創業サポートセミナー「地域創業サポート体制の構築」

地域における創業の促進を目的として、市町村が「創業支援事業計画」を策定し、創業支援事業者と連携して創業支援を行う取組を応援しています。県内では、今年2月に認定した久米島町の創業支援事業計画を第1号として、これまでに8件8市町村の計画を認定しており、特色有る地域活性化を目指し、地域に根差した創業支援に取り組んでいるところです。

12月4日には、県内の計画策定の促進と、創業ノウハウの共有・質の向上を目的とした創業サポートセミナーを開催し、県内外の創業支援の事例紹介を行いました。

基調講演では、広島市と連携して創業支援を実施している株式会

社ソアラサービスの牛来千鶴代表取締役社長から、民間事業者だからできる支援、民間事業者と公的機関が連携することで広がる支援についてお話をいただきました。

パネルディスカッションは「地域の力を引き出す創業支援とは」をテーマに、久米島町と浦添市、長崎県松浦市から、起業予備軍の掘り起こしや起業に導くまでのプロセスなどについてお話をいただきました。松浦市商工観光課の松永係長からは、主要産業である第1次産業に付加価値を創出するための創業を支援のメインターゲットとして、市担当者が各機関との連携の中心となり、本気の支援を実施することで、市の支援体制を整備し、創業

支援の機運を高めているという話があり、参加者のみなさんは熱心に聞き入っていました。



セミナー会場の様子



パネルディスカッションでは、浦添市から新たな相談窓口システムについて紹介がありました。

局の動き

運輸部

新船「フェリーいぜな尚円」が就航

沖縄総合事務局では地域の公共交通を確保・維持するため、沖縄県や関係自治体と共に離島航路の運営費等に対する支援を行っています。

今般、離島航路の一つである伊是名島と今帰仁村の運天港を結ぶ航路に、現就航船「ニューいぜな」の代替船として、新船「フェリーいぜな尚円」が就航しました。

横揺れ軽減のためのphins

タビライザーの装備、多目的トイレやエレベーター設備など高齢者や車椅子利用者に配慮した



就航式典の模様

バリアフリーにも対応し、快適かつ安心安全な航海が可能となり、利用者の利便性向上や地域の活性化、観光振興に寄与することが期待されます。



新船「フェリーいぜな尚円」

運輸部

バリアフリー教室inなはカーモビリティィーク&カーフリーデー

9月20日に那覇市てんぶす前広場において「バリアフリー教室」を開催しました。

バリアフリー化への取組に理解を深めていただくために、ノンステップバスを使用した車いす体験、アイマスク体験を実施しました。また普段は入れないバス運転席での記念撮影や歴史的にバス業界を知つてもらうために「沖縄のバスの移り変わり」と題したパネル展を実施し、多くの方にご来場いただきました。

学生や家族連れなど幅広い年代

の方が参加し、体験後のアンケートでは8割強の方が「今後、困っている人がいたら手助けの声かけをしたい」との回答がありました。

県内では高齢者や障がい者にも利用してもらえるように200両の低床バス（ノンステップ、ワンステップ）が導入されております。

今後も多くの方に心のバリアフリーについて理解を深めてもらい、バリアフリー化社会の実現に向けて取り組んでいきます。



車いす体験



バスでの記念撮影の様子

運輸部

地域バス交通活性化セミナー

10月8日にサザンプラザ海邦でバス交通の活用と地域の活性化について考える「第8回地域バス交通活性化セミナー」を開催し、公共交通事業者や自治体職員など約70名の方にご参加いただきました。

講演では、沖縄県企画部交通政策課の阿波根庸夫氏、NPO法人まちもびデザイン事務局長 伊地知恭右氏から県内、県外の取り組み事例をご説明いただきました。

パネルディスカッションではコーディネーターとして東京大学名誉教授 太田勝敏氏、パネリストと

して大分大学経済学部准教授 大井尚司氏ほか4名をお迎えして、「わったーバス、知って、使って活性化へ」というテーマで活発な意見交換が行われました。

バスの案内表示をはじめ各種情報を正確に分かりやすく提供をする重要性など今後の方策について様々な意見を頂きました。

今後、バス事業者、行政、関係者で連携し、地域のバスが多くの利用者に身近に感じてもらうことでバス交通が活性化することが期待されます。



パネルディスカッションの様子



パネリスト